



# RUNNER

Vol.5



もくじ

◆総会	—2, 3P
◆今日のランナー	—4, 5P
◆M プロジェクト	—6~8P
◆活動の現場から	
◆羽根標本	—9P
◆講習会	—10P
◆TBF	—11P
◆ランナー通りの住人たち	—12, 13P
◆ボランティア雑感	—14P
◆誘拐しないで！！	—15P
◆インフォメーション	—16P

## RUNNER とは??

この会報のタイトル“RUNNER”には3つの願いが込められています。

- ☆救護の会が RUNNER のようにどんな困難も乗り越えて進んでいけるように
- ☆動物たちが元気に大空に飛び立ち、走り続けていけるように
- ☆タヌキのらんちゃんが天国で元気に走り回っていますように

## 通 常 総 会

平成21年6月27日（土）10時より神奈川県自然環境保全センター新館レクチャールームにおいて会員総数143名中出席数80名（本人出席34名、委任状出席46名）で開催されました。

議長三輪早見、議事録渡辺みずほで議事に入り、まず平成20年度財産目録、収支計算書、貸借対照表の内容報告、質疑応答を行い満場一致で承認されました。

続いて平成20年度の事業活動報告を行いました。

主な活動は下記のとおりです。

- 2008/4/10 テレビ番組「ボランティア21」渡辺理事長出演、21日放映
- 2008/5/17. 18 2008年度ボランティア講習会を神奈川県自然環境保全センターと共催
- 2008/5/17. 18 東京バードフェスティバル出展
- 2008/5/19～23 台風による強風のためハジボソミズナギドリ81羽保護、23日放野
- 2008/6 コンパニオンバード誌の取材、撮影。No. 9に掲載
- 2008/6/1 特別講演会開催 田籠善次郎氏「猛禽のリハビリ」
- 2008/6/30 厚木市立愛甲小学校で環境教育「森に住む生き物たち」を講義
- 2008/7/6 リハビリ用のフライングケージ「鳥カフェ」を保全センターで建設
- 2008/7/9 FM川崎「みやこSAPPEかわさきクロスナビゲーション」に平沼亜矢子さん、渡辺みずほさん生出演
- 2008/7/13 特別講演会開催 根上康子氏「野生動物・保全医学の最前線で」
- 2008/8/30 小学生が助けたムクドリの子の公開放野、朝日新聞取材・掲載
- 2008/9/3～7 野生動物医学会神戸大会においてポスター発表
- 2008/9/20 特別講演会開催 東京農業大学野生生物研究室安藤元一先生「神奈川のリスとムササビ、モモンガ」他
- 2008/9/25 秦野市立大根小学校で環境教育「野生動物と仲良くなろう」を講義
- 2008/10/19 「動物フェスティバルかながわ2008inさがみはら」に出展
- 2008/11/2 2008厚木環境フェアに出展
- 2008/11/3 はだの市民まつり出展
- 2008/11/8. 9 ジャパンバードフェスティバルに出展
- 2008/11/28 宮が瀬湖早戸川林道で野鳥観察会
- 2009/1/14 神奈川県傷病鳥獣保護連絡協議会参加
- 2009/2/4～3/9 よこはま動物園ズーラシアにおいて「海ゴミ GO ME!」展開催
- 2009/2/15 神奈川県立生命の星・地球博物館において第8回自然環境シンポジウム後援

- 2009/2/27 学生のための野生動物救護国際ワークショップにおいて渡辺理事長講演「私達に何ができるか」
- 2009/3/16 神奈川県立秦野総合高校で環境教育「環境講座」で講演
- 2009/3/17 神奈川新聞による取材

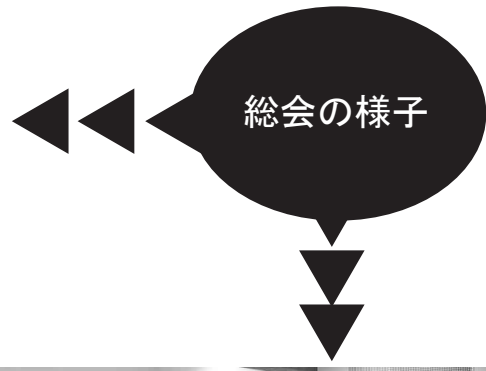
他にも今までのスキルアップ勉強会に加え、上級スキルアップ勉強会を行いより技術の向上を目指しました。

またオオタカ、アオバズク、ムササビ、タヌキなど多数の個体をリハビリし野生復帰させるとともに、ヒナの誤認保護防止ポスターを作成し神奈川県獣医師会、横浜市獣医師会、学校をとおして広く配布しました。

最後の議題は任期満了に伴う理事の選出を行い新理事として渡辺優子氏、佐藤信敏氏、佐藤幸太郎氏、遊佐弘司氏、平沼亜矢子氏、渡辺みずほ氏（順不同）が選出されました。

なお理事長は理事の互選により今期も引き続き渡辺優子氏が就任致しました。

以上議案通りに滞りなく採決され10時30分閉会し、引き続きプロカメラマン佐藤信敏氏による特別講演「レンズが捉えた《つばめの秘密》」を一般の方々にもご来場いただき開催しました。





# 今日のRUNNER



第五走者：ムクドリ

ここでは保全センターに運び込まれた傷病鳥獣について保護記録やエピソードを交えてご紹介します。

## 野鳥の敵

1年間に約60羽—この数字何かわかりますか？ネコに襲われて傷つき、保全センターで保護された野鳥の数です。その内、野生復帰できる野鳥はごくわずかです。私たちの大切なパートナーであるネコ。彼らが野鳥を傷つけてしまうのは痛ましいことです。

今回は、その被害にあってしまったムクドリを紹介합니다。



2009年5月9日 保全センターに来たばかり

## 傷にも負けず

2009年5月9日、1羽のムクドリのヒナが運ばれてきました。飼いネコがくわえてきたということでした。ふごの中にすっぽりと収まった姿は弱々しく、生き続けられるか心配になるほどでした。

幸い、ネコにかまれた傷は浅かったようで、すっかり傷もなくなり、元気になりました。



2009年5月9日 右大腿部に傷がある

## 保護個体データ

受付番号：090120

種類：ムクドリ（巣内ヒナ）

保護年月日：2009年5月8日

保護場所：相模原市津久井町

状態：右大腿部咬傷（ネコがくわえてきた）

（体重：58.5g）

転帰：2009年6月20日野生復帰

（体重：77.3g）

## たくましく生きる

保全センターで保護されてすぐ、ムクドリは保温箱の中に入れられました。傷を負って弱っているため、暖める必要があるからです。しかも自分で食べることができず、挿し餌をしなければなりませんでしたが、しかし徐々に自分で食べられるようになり5月20日には、ほぼ同時期に保護されたムクドリ(090123)と一緒に鳥かごへ移動しました。5月27日には他に2羽ムクドリが加わり、4羽でにぎやかに鳴いていました。6月10日には外のフライングケージに移動し、雨にも負けずぬれながら懸命に飛行訓練を繰り返していました。そして6月20日、11羽のムクドリ達と共に保全センターの野外施設にて野生復帰を果たしました。



2009年6月11日 リリしい姿

○ 図鑑 ○ NO.5

・ムクドリ *Sturnus cineraceus*

ムクドリ科

全長 24 cm。

九州以北で繁殖し、留鳥または漂鳥。村落付近や市街地に多く、芝生や耕地などを歩いて、昆虫を取り、樹上で木の実も食べる。飛翔は直線的で滑翔もよくする。尾が短く、飛ぶと翼の先がとがる。

キュルキュル、リャーリャーと騒がしく鳴き、警戒時はギャーと鳴く。

夏から春先には群れを作り、電線・大木・鉄塔などに並んでとまる。群れで一定のねぐらを持ち、多いときには数万羽にもなることがある。人家の軒や戸袋で営巣するが、集団で繁殖するものもいる。

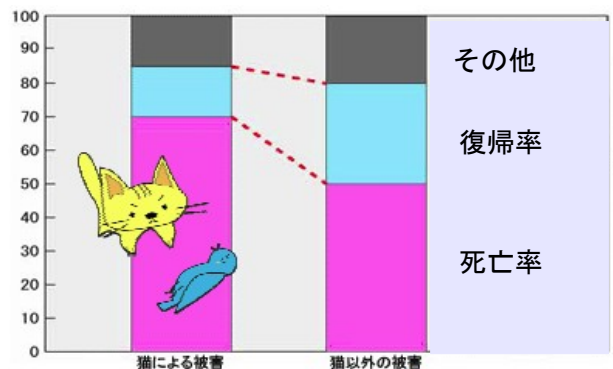
\*参考：・高野伸二『フィールドガイド 日本の野鳥』増補改訂版（財団法人 日本野鳥の会、2007）  
・叶内拓哉『日本の野鳥300』（株式会社 文一総合出版、2005）

回復記録（2009年）

- 5/9 保全センターへ 保温箱に入居  
3日間抗生物質を投与（傷がある為）
- 5/20 保温箱から鳥かごへ移動
- 6/4 （体重：77.4g）
- 6/10 フライングケージへ（体重：79.0g）
- 6/20 保全センター野外施設にて野生復帰  
（体重：77.3g）

野鳥とネコ

保全センターに保護される野鳥の数は年間約600羽。ネコに襲われて傷つき、それが原因で保護された野鳥はその内の約10%で、保護原因の中で上位を占めています。今回紹介したムクドリは傷が回復して元気になりましたが、ネコに襲われて保護された野鳥の約70%が回復できずに死亡しています。また一命を取りとめて傷が治っても、野生復帰できるまでに回復するのは少ないのが現状です。他の保護原因と比べてもネコに襲われて保護された場合、死亡率は高く、野生復帰率は低く、問題となっています。



共に生きるには

では、野鳥とネコが過ごしやすい社会とはどんなものでしょう？まずは『ネコを室内で飼う』ことがあげられます。ネコはペットです。イヌはつなぐけどネコは自由なんて不思議だと思いませんか。そして室内で飼うことで、ネコを感染症、交通事故から守ることができます。野鳥とネコの幸せのため、ご協力をお願いします。

なお、当会のホームページにも”野鳥とネコの幸せを考えてみよう！”と題して詳しく取り上げています。ぜひご覧ください。

## M (猛禽) プロジェクト

～チョウゲンボウ 4羽兄弟 の巻～

猛禽類のリハビリには、日本の伝統技術である放鷹術を取り入れ可能な限りストレスをかけずに効率的なリハビリによる早期野生復帰を組織的に行うリハビリチームが必要不可欠です。このリハビリチームこそ私たちが行っているMプロジェクトです。

成鳥と若鳥との訓練の違いは狩りの経験値の違いにあります。成鳥の場合、狩りの経験があるので基本訓練（飛ぶ力）で筋力・体力・持久力を養い、狩りのカンを取り戻せます。若鳥は、基本訓練と狩りが未経験のため獲物を追い詰めるための翼の使い方を教えなければなりません。

2007 6/27 その日、神奈川県自然環境保全センターでの用事を終えて帰ろうとした時に、4羽のチョウゲンボウ（以下チョウゲン）が持ち込まれました。あと1週間ぐらいで巣立つであろうと思われる兄弟たち。受付に立ち会った私は、この子たちが誤認保護ではないか、何度も確認しました。チョウゲンを保護してくれた若いお兄さんは、イヤな顔もせず状況を説明してくれました。自分の勤める会社の裏、道路上にいたそうです。道路の向こう側は、広い河原。4羽まとめて保護したのではなく、日を置いて次々に保護したそうです。保護するにも、親がいるはずだろうからと隠れて待っていたそうですが、いくら待っても親は現れずにヒナは少しずつ弱っていったそうです。1羽拾えば、次の日また1羽と保護したそうですが、いったい何がおこったのでしょうか・・・。

親がなんらかのトラブル？

結局、受付後そのまま私が短期里親として放鳥にむけ訓練するために預かる事となりました。過去にチョウゲン3羽を同時に訓練した事はありますが、預かった時期が少しずつずれていたもので、訓練を始めたばかりの子には、びゅんびゅん飛んでいる他

の子を見せ、学ばせてから（本当に学んでいるかは不明だが）順送りの訓練だったのでなんとかなった記憶がありましたが、しかし今回はまとめて4羽。1羽1羽への対応に時間がとれないのは目に見えていました。

### チョウゲンボウ・巣内ヒナ

▼受付日	2007/6/27	
▼受付番号	体重	足輪
070287	196.0g	右青
070288	209.0g	右赤
070289	181.0g	右黄
070290	202.0g	左青
▼救護原因	不明	
▼保護場所	平塚市	



★この4羽を並べるのに1時間かかりました

4羽の体重表										
足輪色	①7/16	②7/18	③7/20	④7/22	⑤7/25	⑥7/27	⑦8/1	⑧8/5	⑨8/6	⑩8/11
右青	183.8	181.3	176.1	177.5	172.5	166.5	160.1	159.1	164.1	162.6
右赤	177.1	176.9	177.7	176.4	172.8	166.2	156.3	149	151.4	156.1
右黄	181	175.7	174.5	166.6	166.6	167.2	157.6	149.9	151.4	146.4
左青	163.1	169.3	161.8	150.3	154.3	150.2	148.1	122.7	145	←死亡
足輪色	⑪8/13	⑫8/15	⑬8/19	⑭8/21	⑮8/23	⑯8/26	⑰8/28	⑱9/1	* 以下、文中は 右青は青に省略 右赤は赤に省略 右黄は黄に省略	
右青	164.9	155.4	156	141.3	←野生に帰る					
右赤	154.4	157.3	149.3	154	160.1	151.3	145	204.8		
右黄	152.5	154.9	159.1	160.7	160.2	146.3	146.6	237.2		

## 第1章 訓練

- 7/16 ①赤・左青 手から食べる
- 7/18 ②赤 30cm を 10 回飛ぶ 他の子はダメ
- 7/20 ③赤 6 m を 6 回・黄 80cm を 1 回  
左青 20cm を 2 回・青 6 m を 5 回
- 7/22 ④赤 11m を 6 回・黄 3m を 7 回  
青 4m を 5 回・左青 30cm を 3 回  
野生のチョウゲンが近くまで見に来る
- 7/25 ⑤M プロの仲間に実演実習
- 7/27 ⑥4 羽とも 12m を 10 回飛んでくれる  
左青ちょっと反応遅い
- 8/1 ⑦4 羽とも 20m を 10 往復 順調
- 8/5 ⑧3 羽順調 左青具合悪そうなので  
飛ばさずに餌のみ
- 8/6 ⑨左青死亡 3 羽は 25m を 10 往復
- 8/11 ⑩今日から紐なし (\*ここまでは、両足に  
30m ほどの紐を付けて飛ばせている)  
自由に飛んでけ、と言ったら本当に  
飛んで行ってしまふ  
苦労しながらもなんとか 3 羽回収
- 8/13 ⑪畑で生きたヒヨコに紐つけ、振り回し  
て翼の使い方の練習  
赤・黄 反応が良い
- 8/15 ⑫赤一番飛ぶのがうまい・黄元気  
青脱走 (\*目の届かない所へ行ってしまう  
う事) 餌を見せてなんとか捕まえる
- 8/19 ⑬赤順調・黄いまいち・青脱走
- 8/21 ⑭赤反応悪し・黄上手に飛ぶ  
青脱走、一日探すが見つからず結局、  
そのまま野生に帰る
- 8/23 ⑮赤脱走 走り回ってつかまえる

8/26 ⑯2 羽とも順調

放鳥にむけ保護場所を下見に行く

8/28 ⑰4 時過ぎディスカバリー系列アニマル  
プラネットの「こちらアニマルプラネ  
ット新聞社」の撮影のため撮影スタッ  
フ 9 人、見学者 11 人の総勢 20 人ほど  
が見守る中、赤と黄を飛ばす、かなり  
のプレッシャーだったが、見事に飛ん  
でくれる、これで訓練を終了とする、  
あとは放鳥に向け食べただけ食べさせ、  
黄の折れた尾羽に接羽する

## 第2章 自由へ

9/1 ⑱お腹いっぱい食べさせた後、赤と黄を  
自宅の庭より放鳥、しばらく屋根に止  
まっているが、いつの間にか消える

\* 本来、救護個体は救護場所で放鳥するのが  
原則だが、今後の観察のため、足に足輪をつ  
け庭より放鳥する。足輪は救護個体という事  
で、環境省の許可済み。足輪だけで、赤と黄  
の判断はわかりづらいが、黄の尾羽の接羽に、  
成鳥の灰色のものを使用したため見分けが  
できるようになる。

9/2 自宅の目の前の空き地で 2 羽一緒に  
バッタを捕っている様子が見られる

9/3 赤がバッタを捕って食べているのを  
確認・黄は不明

9/5 たぶん赤、バッタを捕っている

9/12・13 赤が現れ空き地に降りて行く

- 9/14 空を旋回して電柱へ、トカゲを食べているのを確認、どちらかは不明
- 9/26 朝、赤が空を横切っていくのを確認
- 10/1 我が家のチョウゲン（ちょー太）の鳴き声に外を見ると、鳥小屋の屋根に赤確認、すぐに消える
- 10/8 チョウゲン（ちょー太）の鳴き声で黄がアンテナに止まっているのを確認、もう1羽林に飛んで行く姿 赤？
- 10/25 ノスリの訓練中、黄が姿を見せるが、次列風切羽と尾羽の抜けているのが目立ち、他の生き物たちとの戦いが想像でき野生の世界の厳しさを感じる

### 第3章 試練

- 12/28 黄、鳥小屋の屋根に降り立つ
- 12/31 夕方、黄が来る 尾羽がぼろぼろ  
数日前に我が家の猛禽の餌を盗んだ様子、どうやら餌目当て？
- 2008/1/2 黄を、餌で釣って捕まえる  
187.2g すぐに放す
- 1/13 センターにチョウゲンが持ち込まれ足に足輪がついている、赤でした 165.0g  
秦野駅前でカラスに追い詰められていたのを警察の方が保護、偶然保全センターに私がいたのでそのまま連れて帰る
- 1/17 赤 210.0g 療養後、自宅の庭より放鳥
- 1/23 朝、黄が来るが目に力がない  
ヒヨコあげる
- 1/24 朝、再び黄が来る  
ヒヨコあげ、そのまま外出  
夕方帰宅、庭で黄の死体を発見 181.0g



★1/24 黄の死体

### 第4章 そして

猛禽たちとつき合っていて、「なんとなく感じる」ということが、私にとってとても大きなメッセージになっているのを実感します。具体的な説明ができるものではないのですが、この4羽にしても、左青は最初から危なげ・青は反抗的・黄はあまえんぼう・赤は自立と個性があまり見えないうちから感じていました。

1羽に対して、じっくり訓練する時間がとれなくて脱走される事が多々ありました。青などは自分で選んだ道なのでしょうがもっと体重を増やしてから放してあげたかったと悔やまれます。



★10/1 鳥小屋の屋根に 赤

こうして、4羽兄弟のそれぞれの結末となりましたが、赤は少しだけ生き残っている可能性を感じます。今年の6月初めに秦野駅前のビルの間を2羽のチョウゲンが、ハトの群れにまぎれて優雅に飛んでいるのを見かけ、下の道路には大勢の人がいましたが、誰一人として上空で繰り広げられている、野生の営みに気がつく人はいませんでした。

秦野市環境保全課に確認したところ、数年前から人間の入れないビルの屋上で、チョウゲンの繁殖が確認されているそうです。

ここにひとすじの希望を残して・・・・。



# 活動の現場から

このコーナーでは普及啓発活動などに参加したボランティアさんが  
その体験をもとにレポートしてくれています。

## ◆第1回 羽根標本作製◆

平成21年4月18日、自然環境保全センターのレクチャールームにて「第1回羽根標本作製」が行われました。当日にはボランティアさん7名の方が参加され、私はこの企画のスタッフとして参加しました。その時の様子や羽根標本作製の手順を紹介したいと思います。

羽根標本作製の目的は、傷ついて保全センターに保護されても、残念ながら傷病舎で亡くなってしまった鳥たちの羽根で標本を作り、種の識別や普及啓発活動などに活用することです。

今回はイカルとコジュケイを用い、2班に分かれて作業を行いました。手段として、まず初めに鳥の各部位(全長、翼の長さ、尾長など)を、ノギスと定規を用いて計測しました。目盛りの読み方が難しく、みなさん一生懸命に長さを読み取ろうとしていました

計測後は、羽根の名称を実際の羽根を見ながら、各部分を確認していきました。そして、各羽根にはどのような役割があるのかを合わせて勉強しました。

次は、羽根を抜いて標本を作っていきます。抜く羽根は基本的に、小翼羽、風切羽根(初列、次列、三列)、初列雨覆、大雨覆、中雨覆、小雨覆、上尾筒、下尾筒、尾羽根、胸、背の羽根です。種類によってはアオゲラの頭羽やカワセミの腰羽など特徴のある羽根を抜く場合もあります。

抜いた羽根は、OHPシートという透明なシートに順番通りに丁寧に並べてテープで張り付けていきます。羽根を並べる作業では、「この羽根はどこだったっけ?」「左右の羽根の枚数が合わない」などうまくいわずに四苦八苦している様子が見られました。

貼り付けた標本は最後に各羽根の名称シールを張り付け、ファイルに保存して完成です。どちらの班もとても上手に出来上がっていました。

今回は初めての羽根標本作製でしたが、快調なスタートを切ることができました。これからも羽根標本作製は続けていきますので、興味のある方は次回、是非参加してみてください。



羽根を張り付けている様子



完成したイカルの羽根標本

## ◆ 2009年度ボランティア講習会 ◆

5月16日(土)17日(日)の2日間にわたって「神奈川県野生動物救護ボランティア講習会」を開催しました。募集人数30人程度という当初の予定をはるかに超える応募があり、最終的には62名の方に受講していただきました。この講習は傷つくなどして自然環境保全センターに保護された野生動物の日常の世話や、野生復帰へ向けてのリハビリをしたり、広く一般の方々に野生動物救護・自然環境保全の大切さを伝える普及啓発活動をしたりするためのボランティアを育成するために、毎年行っているものです。

今回の講習会で、先輩ボランティアの塩澤さんが受講者の方々にインタビューして下さいましたので、その一部をご紹介します。

### 志望理由を教えてください

- \*野生動物の保護をやってみたい
- \*野生動物のことをもっと知りたい
- \*日本の野鳥の現状に興味がある
- \*怪我をしたドバトを保護したが、何もできなかったことがきっかけで
- \*友人の紹介で



### 講習会はどうでしたか？

- \*すべてが勉強になった
- \*実際に動物を見られてよかった
- \*初めて知ることが多かった
- \*楽しかった
- \*もっと野生動物について知りたいと思った
- \*疲れた…眠かった…

### 何が印象に残っていますか？

- \*スタッフにユニークな方が多かったこと
- \*実習 特にさし餌では幼鳥をつかむ力の強さがわからなかったこと
- \*救護された動物を実際に見て、傷のひどさに驚いたこと
- \*野生復帰できない動物がこんなにもいるのかと知ったこと
- \*専門的で難しいところもあったこと



### どんなことをやってみたいですか？

- \*さし餌など動物の世話
- \*解剖
- \*野生動物の現状を多くの人に知ってもらいたい
- \*保護された原因を探り、不幸な動物を減らしたい
- \*何でもやってみたい

## ◆TBF 東京バードフェスティバル2009◆

5月23日(土)24日(日)に第6回東京バードフェスティバルが開催され、一日目は約4500人、二日目は約2500人の人々が会場である東京港野鳥公園に足を運びました。当日は、「親子で楽しもう野鳥公園」をテーマに、ミニコンサートやトークショーが行われ、また子供縁日広場やミニ収穫祭などの企画が展開されました。我が野生動物救護の会も出展し、クイズなどの楽しいイベントや、救護の現場で活動する当会ならではの実績とデータ分析を踏まえた内容の濃いパネル発表を行いました。

TBF 初参加！ 重松さんの感想です。



※バードストライク：鳥がビルなどに衝突する事故。  
野生動物救護の会では「衝突」と呼ぶこともあります。

初日はあんなに晴れていたのに、二日目は生憎の雨。それでも野鳥好きなご家族や学生が雨にも負けず参加し、午後から雨も上がり、賑やかな一日となりました。

救護の会のブースでは「バードストライク※」をテーマに、実際に衝突した窓ガラスの写真やその原因で救護された個体などの展示やグッズ販売をしました。私がブースにいたのは30分・2コマの計1時間。今回はイベントスタッフ初参加でもあり、雰囲気をつかむことができず、パンフレット配りやグッズ会計しかできず、展示テーマについてお客さんと話すことができなかったのがとても残念です。

その他の時間の多くは公園内をバードウォッチングしていました。シギ・チドリの仲間やオオヨシキリ等、31種ものたくさんの野鳥を観察することができました。なによりも興奮が高まったのが「ツキヒホシ、ホイホイホイ」と、口笛のようなとてもキレイな囀りを聞いた時でした。その声の持ち主は『サンコウチョウ』というとても美しい夏鳥です。パークレンジャーさんに話を伺ったところ、東京港野鳥公園にはほとんど立ち止まらないため見ることできたのはとても珍しいとのこと。観察していると、巨大カメラをもったおじさんやご家族も立ち寄り、皆で一丸となって観察できました。

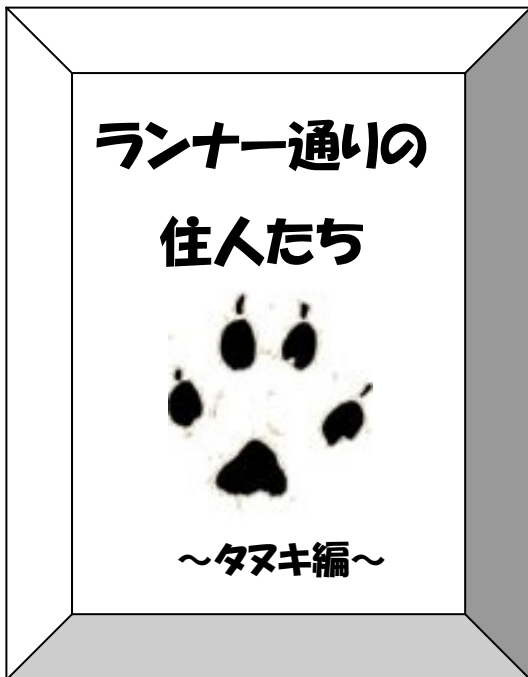
また双眼鏡、野鳥グッズ、図鑑販売などのブースを覗いたり、野鳥写真家である叶内拓哉さんの野鳥撮影講座などのイベントに参加したり、充実した一日を過ごすことができました。

鳥好きにはたまらないイベントとなったようですね。また、当会の展示により、バードストライクについて多くの人を知り、考えてもらえるきっかけになったのではないのでしょうか？

11月にはJBF(ジャパンバードフェスティバル)も開催され、当会も参加する予定です。興味のある方はぜひ参加してみてくださいね！



バードウォッチングの様子



狸、狸

Raccoon dog

*Nyctereutes procyonoides*

ネコ目イヌ科タヌキ属

### タヌキってどんなヤツ？

タヌキは目の周りが黒っぽい夜行性のイヌの仲間、本州・四国・九州にいるホンダタヌキと北海道のエゾタヌキがいます。ここでは主にホンダタヌキについてお話をしたいと思います。

インターネットや図鑑には体重3~10kgなど書いてありますが、保全センターに保護されてきたタヌキで6kgを超えた子は見たことがありません。

野生のタヌキはため糞をする習性があるので、登山に行ったら林道の脇にこんもり糞が盛ってあるのが見られるかもしれません。

また、よく寝たふりをするを「タヌキ寝入り」なんて言いますよね。確かにタヌキは何かに驚くと寝たように動かなくなりますが、これは寝たふりをしているわけではなく、本当に気絶して動かなくなってしまうんです。そういう時に人に捕まって、人が油断したときにタヌキはハッと目を覚まして逃げてしまうのです。

ちなみにタヌキは太鼓腹でもないし、アライグマのような縞々の尾っぽもありません。

生まれたばかりの子供は真っ黒で、「熊の子が1人でウロウロしてたんです」と持ってこられる方もいます。



通称：エリちゃん

### 色々なタヌキたち

そうは言ってもタヌキなんて田舎行ったときに見たことあるくらいとか、人生で1回しか会ったことない、動物園でしか見たことないという人がほとんどかもしれませんね。でも！実はタヌキは丹沢のような山地にも新宿のような都会にも生息しているんです。

ただ、都会に住むタヌキは道路の側溝の中を移動するので、なかなか人目にはつかないんですね。もしかしたらあなたの帰り道にある側溝も、タヌキの通り道になっているかもしれませんよ。

神奈川県自然環境保全センターに来るタヌキにも色々います。保全センターには毎年約60頭のタヌキたちが保護されてきて、基本的には番号で呼ばれますが、中には保護場所やルックスなどからあだ名が付けられることもあります。横浜市青葉区から来た「青葉ちゃん」、疥癬症のせいで下半身しか毛が生えてないのでチュチュを着ているように見える「バレリーナ」など、様々なタヌキたちがいます。



## 疥癬症



湯たんぽで暖をとる疥癬タヌキ

タヌキの保護原因で最も多いのは疥癬症という感染症です。普通のタヌキはとてもフサフサしたヤツらなのに、ヒゼンダニというダニが皮膚の中に穴を掘って住みついて、毛が抜けてしまう病気が疥癬症です。毛が抜けた皮膚はカサカサしていて、ひどい子では皮膚が割れて血がでている子もいます。保護されるタヌキの中には全身の毛が抜けて厚さが1cm以上のかさぶたに被われている子もいます。そんな子たちはお風呂に入れたりダニを落とす薬を投与したりします。

疥癬症により瀕死の状態では運ばれてくるタヌキも少なくありません。搬送されて治療を受けても、残念ながら天国へ旅立ってしまう子もいます。

そんな疥癬症にかかったタヌキさんたちですが、今年は嬉しいことに生き延びる子が多く、現在保全センターには約20頭のタヌキがいます。

疥癬症はタヌキの他に様々な動物に感染します。もしも疥癬症にかかったタヌキを見かけたら、むやみに素手で触らないようにし、タヌキに触ってしまったらすぐに手を洗いましょう。

## エリちゃん

受付 No. : 070006

受付日: 2007年1月9日

このタヌキは山北町谷峨から交通事故により搬入され、後足が麻痺していました。

元気は取り戻したのですが、いつまで経っても左膝の傷が癒えません。かさぶたにもならず、ど

んどん広がっていくわけでもなく…。

一度民間の獣医さんにもこの子を託し、色々奮闘していただいたのですが、傷が癒えないうちにまた保全センターへと戻ってきたのです。

このグジュグジュした傷をいっつもペロペロと舐めてしまうため、獣医さんは傷を舐めるのを防ぐエリザベスカラーをこの子の首に装着しました。こうして「エリザベス」→「エリちゃん」と呼ばれるようになったのです。

エリちゃんの傷は、何も治療をせずに経過観察をなされている間に一度とても小さくなりました。しかし、もうそろそろだと思ったときにもうひとつ、同じような傷が元あった場所のすぐ近くにぽこっとできているではありませんか…！

2つの傷はくっついて、ますます大きくなってしまいました…。



左足の傷が治らない…

幸い(?)なことに、エリちゃんは保全センター歴が長いため、比較的簡単に治療をさせてくれました(放野後も慣れ慣れだと困るのですが…)。獣医さんは毎日エリちゃんの傷に薬を塗りました。そのうち段々と傷は小さくなり、とうとう治ったのです!!

そして今年の5月、ついにエリちゃんは外ケージ(FC3)へと移動し、現在放野に向けての最終段階に入りました☆

今は他のタヌキと一緒に外の環境に慣れさせています。

放野の日が待ち遠しいですね～！

# ボランティア雑感

このコーナーではボランティア歴1年目の平さんが  
日々の活動を通して感じたことを紹介します。

ボランティア活動を始めて1年。最初の半年は毎日行なう作業の流れを憶えられない雛鳥のさし餌におそるおそると臨んでいた。その合間に持ち込まれる鳥や動物たちの受付を傍で見ていて、持ち込んだ人との会話に笑ったり驚いたりしている。



さし餌から自分で食べられるようになり、フライングゲージでの飛行訓練を経て、自然の中に飛び立っていく。窓ガラスにぶつからないようにとか、猫を見たら逃げなくてははいけないとか、その他モロモロの事柄を親に教えられることもなく生きていかなければならない。私に出来るのはしっかりおやりとの思いだけである。

去年の春の終わりにおじいさんが仔イノシシを連れてきた。「しばらく見守っていたけど、親は来なかったからここへ来た」と言う。「人の心配がすれば親は来ません。きっと探しているので、保護した所に戻して下さい」と職員が応じると、「せっかく連れてきたのに。足の一本でも折れていればここで預かってくれるのか」と言い出す。善意と思ってしたことが、反対に誘拐になってしまったことに対して、納得がいかない様である。根気よく説得した職員の言葉をうけて、また、山へと引き返してくれた。

時には小指先ほどのコウモリの仔も届けられる。いったいこんな小さい物をどうやって見つけたのかと不思議になる。ミルクで育てても未だに大きくなったのはいないようである。

自分の飼い猫が傷つけた小鳥を、何度も持ち込む人がいる。小鳥を助けたいという気持ちも解らなくはないが、いったいどうやって対応すればよいのか、加藤先生を始めとする職員の方々には頭が下がる。

いまセンターにはアナグマとタヌキの幼獣がいて、ボランティアに行くたびに大きくなっている。ミルクから離乳食へと移行して、もう小さなケージでは窮屈そうである。この仔達にどうやってえさの見つけ方や、身の隠し方を教えるといいのだろうかと考えてしまう。昔見た映画で「野生のエルザ」というのがあった。エルザと名付けられた雌ライオンの仔が、大きくなり、育ての夫婦の努力でアフリカの大地にひとり立ちし、母となることが出来た感動の物語であったが、群れで暮らすライオン社会のなかにどうやって受け入れられていったのだろうか。

ここ保全センターの動物たちにも、広い場所で訓練を受けさせることが出来ればと願うのだがどうにもならない。

野に帰り、一日でも長く生きてほしいと切に思う。

# 誘拐しないで！！～哺乳類の誤認保護～



今年も春が終り、夏がやってきますね。そんな季節は新しい生命が誕生する季節でもあります。

保全センターにもムクドリやスズメのヒナ、タヌキやアナグマ、シカの幼獣などが連れてこられました。

あなたも街中を歩いていてツバメやスズメ、ハトのヒナが道路の上にちょこんと座っているのを目にしたことがあるのではないのでしょうか？

では、タヌキやノウサギ、シカの赤ちゃんがあなたの目の前にいたら、あなたはどうしますか？

「誤認保護」というのは、保護する必要のない動物を誤って保護してしまうことを言います。実はこの誤認保護、鳥のヒナだけではないんです。

## タヌキ：側溝で子育て



「ランナー通り」でもご紹介した様に、タヌキは側溝を歩き回ります。この側溝、タヌキの家にもなるんです。

タヌキは春に子供を 3～5 頭ほど産みます。そんな子たちが側溝でミーミー鳴いていると、側溝に落ちたのかと思って連れてきてしまう人がいます。エサ探しから帰ってきたお母さんは子供たちがいないことにびっくりしてしまいます。

雨が降っていて、そのまま側溝にいと冷えたり流されたりして命を落とす危険があると思ったら、元いた場所から近い草むらなど、安全に親を待つことができそうな場所に置いてあげてください。

## ノウサギ&シカ：授乳は 1 日 1～2 回

ノウサギやシカは、幼獣に 1 日 1～2 回ほどしか授乳しません。そして授乳時以外は親と子は離れて行動するのです。なぜなら彼らは草食動物であり、常にいつ捕食されるかわからない状況に置かれている動物です。親と一緒に行動すると捕食者に見つかる確率が増え、子供が狙われる危険性があるため、親は子供から離れ、子供は捕食者に見つからないように林や草むらの中でひっそりと隠れています。

## コウモリ：成獣でも意外とちっちゃい

アブラコウモリは成獣でも 4～11g ほどしかなく、冬眠もします。冬眠から覚めたばかりでまだボーっとしている大人のコウモリが、赤ちゃんが落ちていたとか、ぐったりしているのかと思われて保護されてくることもあります。



確かに私たちの手で幼獣を大きくすることはできません。しかし、自然の厳しさを教えることはできないし、親にはなれないのです。

特にまだ目が開いていないくらい小さい幼獣の場合、自然界で暮らしていくのはとても難しいことです。

もし幼獣が怪我をしていたり、病気だったりしたら話は別ですが、そのようなことがない限り、親からむやみに子供を引き離さないでください。

一見はぐれたかのように見える幼獣たち。でも、親はちゃんと戻ってきます。人間と同じように、動物の親も自分の子供を想っています。

もし 1 人でのいる幼獣を見つけても、近くに寄らずに遠くからそっと見守っててください。

連絡先：NPO 法人 野生動物救護の会

✉ wildrelief@kanagawa-choju.sakura.ne.jp

☎ 0463-75-1830

## ボランティア交流会

●ボランティアさん同士の交流を深めましょう。楽しい企画も用意しています。多くの方の参加をお待ちしております。

▽日時 7月19日

▽場所 自然環境保全センター

※詳細は当会のホームページをご覧ください。

今後の参考にしたいと思いますので、同封のアンケートにご協力お願い致します。  
RUNNERに関する率直なご意見・ご感想をお書きください。

## ボランティア修了書授与式

●本年度ボランティア受講生の研修期間もいよいよ終わり、登録証と修了書が渡されます。研修は終わりですがこれからが本番ですね。

▽日時 9月中旬(予定)

▽場所 自然環境保全センターレクチャールーム

## ジャパンバードフェスティバル2009

●ジャパンバードフェスティバル2009(JBF)に今年も出展します。“鳥”がテーマの一大イベントです！！

▽日時 11月7日(土)、8日(日)

▽場所 千葉県我孫子市手賀沼周辺

※詳細は当会のホームページをご覧ください。

## ☆☆会員へのお誘い☆☆

当会は、ボランティアスタッフの協力と設営趣旨にご賛同いただきました皆様方の寄付によって運営されております。

私たちの活動を支えてくださる賛助会員も同時に募集しています。

★ボランティア会員(年会費2,000円)

一般会員:どなたでもご参加いただけます

救護会員:ボランティア講習会を受講し、野生動物救護ボランティアとして登録された方

★学生会員:学生の方(年会費1,000円) <区分は上記と同じ>

★賛助会員:当会の活動にご賛同いただき寄付をしていただいた方

年会費:法人一口5,000円 個人一口3,000円 一口以上

振込先 ゆうちょ銀行振り替え口座 : 00270-0-47040

名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月: 2009年7月 発行: 特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話: 0463-75-1830

〒259-1306 神奈川県秦野市戸川1086番地の4 ホームページ: <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>

編集者 表紙絵: 大坪日爽香 総会: 渡辺優子 今日のRUNNER: 小松美絵 Mプロジェクト: 渡辺優子

羽根標本: 山下宏幸 講習会・TBF: 太向咲恵 ランナー通りの住人たち: 高橋恵

ボランティア雑感: 太向咲恵 哺乳類誘拐: 高橋恵 インフォメーション: 塩崎麻由

Special thanks 加藤千晴先生、三輪さん、佐藤さん、平沼さん、発行にご協力いただいた方々ありがとうございました☆



# アンケートのお願い

1. あなたの性別をお答えください。

男       女

2. あなたの年齢をお答えください。

10歳未満      10代      20代      30代      40代  
50代      60代      70代      80才以上

3. 野生動物救護に関わるボランティア活動をしていますか？

はい（野生動物救護の会 その他）      いいえ

4. 3. で「はい」と答えた方にお聞きします。そのボランティア活動歴は何年ですか？

1年未満      1年      2年      3年      4年      5年以上

5. 今回の会報誌はどうでしたか？

面白い    まあ面白い    ふつう    あまり面白くない    つまらない

6. 良かった記事は何ですか？（複数回答可）

今日のRUNNER    Mプロジェクト    羽根標本      講習会  
TBF    ランナー通りの住人たち

7. 5, 6の理由をお聞かせ下さい。

(      )

8. また読みたいですか？

ぜひ読みたい    まあ読みたい    読まない

9. ご意見、ご感想などございましたら、ご記入ください。

このアンケート用紙は、封書で野生動物救護の会事務局まで送っていただくか、FAX（0463-75-1830）、  
または自然環境保全センターボランティア室入口右電話の横アンケート回収箱までお願いします。

ご協力ありがとうございました。